

淀製造ノ件

1314

秘

文

先

軍令部長



次長



第三部長

第四部長

第一部長

第二部長

會計課長

作戦班

機務部長



副官



參事官



三十年四月十六日起案

決裁
四廿三
四六

大臣

次官



軍務局長



勅員



經理局長



主任局員



第一号通報艦製造件

臨時軍需費艦艇補足費支給手続造之件

軍機密第百九十七號

1315

付
一 海軍省に於て

第一 通報船計画大體に於て異存なく
但左の諸点に改正を成す様だ

一 右橋の取上り前橋の使に高ク之に無係
電信の装置ヲ施ス

二 スタンダー止「コムパス」座に無線電信室ヲ
設ケ「スタンダー」ト「コムパス」兩相突ノ中間に通船
座ヲ設ケ置ク「兩」テ前計画ノ無線電信
室に先任將校室又「スタンダー」レ「コムパス」

三 各岸岸庫に船側岸庫ト中央岸庫ヲ區
劃シ船側岸庫より直接諸前ノ採炭
得ん様相當ノ採炭口ヲ設クル

軍令部

新編 舟車 一巻 一冊 小

1315

船体部 圖面七枚
日 製造方法書五冊
右袋に添付ス

1317

号通報艦ハ私立製造所ニ於テ製造セシムル豫
 定ニ付取調ハ近川崎造船所ニ於テ兵署ニ備
 品ヲ除キ金九拾万五千由ニテ請負ヒ引拾四ヶ月
 以内ニ竣セシムル旨申出ル右ハ至當ノ價格ト
 認めル糸同造船所ニ契約スル可ク收至製造所
 要領書圖面等豫算書等依仰高裁リ也
 但契約書案ハ本件決裁備上上馬ニ
 提出スル也

第一号通報艦要領

垂線間長

三百八拾呎

全長

三百五呎六吋

最大幅

三拾九呎七吋

深

七呎七吋

喫水

前部

八呎六吋

後部

拾壹呎

平均

九呎九吋

排水量

千七百五拾噸

実馬力

六千五百

速力

三拾海里

兵器

四七吋連射砲 砲門

十三斤連射砲 砲門

十八吋水雷艇射管 砲門

小銃 五十挺

拳銃 拾八挺

探照燈 八基

皇清宣統元年

0101

1320

見積書

一報知

壹陸文

排水量壹千二百五拾噸其外仕積書及
圖面之通ニシテ竣工期日ヲ契約ノ日ヨリ
貳拾四ヶ月以内 但兵器並ニ備品ハ御官給ノ事
此所積負代金九拾萬五千圓也

右之通ニ付仕候也

明治二十八年四月十五日

神戶市
株式會社
造船所

社長 松方幸次郎



明治二十八年四月十五日

海軍艦政本部
長 齋藤 實 殿

松本 有 不 川 崎 送 附 封

0061

1323

皇

秘

艦政本部長



第三部長
第四部長
第一部長
第二部長
會計課長

副官



參事官



三十八年九月廿七日起案

決裁
四廿九

大臣

次官



軍務局長



局員



經理局長



主任局員



局員



第一号通報艦製造契約の件

官房機密第五三四號
官房機密第五三四號
第一号通報艦製造契約の件
第一号通報艦

官房機密第五三四號

回審七夜艦造方面を以て
決裁所は分り契約書は艦房
及神調平情部友集抄の

1325 1324

官房機密第五三四號

秘

艦政本部長

印

第三部長

部員

會計課長

副官

印

參事官

三十八年九月廿七日立案

決裁場

大臣

次官

印

軍務局長

局員

經理局長

主任局員

局員

第一号通程艦製造契約の件

官房機密第五三四號
官房機密第五三四號
第一号通程艦製造契約の件

官房機密第五三四號

海軍

1325

1324

船一隻川崎造船所請負のセ製送るんは其契
約別番ノ用り締結のあ然裁け以作
高裁也

契約案

海軍艦政本部長有藤實ハ通報艦艦體ノ製造ヲ神戸市
船政會社川崎造船所社長村方幸次郎ニ請負ハシメ契約
ヲ爲ス左ノ如シ

第一條

本契約ニ依リ請負者ニ於テ製造スルキ通報艦ハ

此契約書ニ附屬スル製造方法書各冊及圖面並ニ船體
七枚ニ據リ製造シ船體極固及構造ヲ完成スルモノトス
但シ本艦ノ動作ヲ完全有効ナラシムルニ必要ニシテ且當位
施スルキ工事ハ製造方法書又ハ圖面ニ特ニ記載ナキモノ
トモハ請負者ニ於テ之ヲ完成スルモノトス

第三條 本艦に備附ハキ兵器、測器及用品の官に於テ本艦受領ノ後之ヲ備附ヘシト爲モ本艦引渡前ニ於テ本艦ニ取付又ハ備付ヲ要スルモノハ請負者ニ於テ官ヨリ之カ供給ヲ受ケ本艦ニ取付又ハ備付ヲ爲スモノトス

第三條 前條ニ依リ請負者ニ於テ本艦ニ取付又ハ備付ヘキ物件ハ其海軍工廠ニ於テ請負者ニ交付ス請負者ハ其運搬ヲ負擔シ自己ノ工場ニ持込ケモノトス
前項ニ依リ請負者ニ於テ受領シタル物件ハ本艦ノ引渡ヲ終ルニテ毀損亡失其他一切ノ損害ニ對シ請負者其責ニ任ルモノトス

第四條 本艦製造中海軍艦政本部長ハ監督者ヲ請負

者ノ工場ニ派遣シ工事ヲ監督セシメ不完全ノ工事ア
トキハ之ヲ改正セシムモノトス又請負者ハ監督者ノ必
要ト認ケル書類並ニ明細圖面ヲ監督者ニ提出スルモノ
トス

第五條 本艦ノ製造及修裝ニ使用スル材料及物品ハ
其ノ使用ノ目的ニ適スル最良ノモノナルニ請負者ハ製
造方法書ノ規定ニ據リ其材料ノ試験若クハ検査ヲ施シ
監督者ノ承認ヲ受クニシ
製造方法書ニ試験検査ノ規定ナキ材料物品ト雖モ監督者ニ核
テ必要ト認ケルモノハ請負者ノ任テ其要否ニ應ジ試験表クハ
検査ヲ施シ監督者ノ承認ヲ受クルモノトス

第六條 前條ノ材料及物品ニテ使用ノ目的ニ適セザル故テ以テ
監督者、於テ排斥シタルモノハ請負者ハ直ニ他ノ材料又ハ物
品ヲ以テ之ニ引換ヘシ其引換ヘタル材料又ハ物品モ亦前
條ノ依リ監督者ノ承認ヲ受クニ但シ之ヲ為メ第十七
條ノ引渡期限ヲ延長スルコトヲ得ス

第七條 本條、船體、機関、補助機、械若クハ機装ノ構造又ハ
使用材料及物品中特許若クハ意匠専用權ヲ有スルモノ
アルキハ請負者、於テ其特許若クハ意匠ノ使用種ヲ
仕拂ヒ特許意匠侵害ニ對シ責任ヲ負フモノトス

第八條 請負者ハ製造方法書ニ記載シタル回面及目錄類ヲ
調製シ海軍總政本部長ニ送附ヲ提出シ其他又本條ニ

老組ヲ備付ルモノトス

第九條

本契約締結後本艦、改造又ハ新設等ノ工事

ヲ必要トナシシ之ニ對シ請員金額ニ増減ヲ要シ若クハ引

度期限ニ伸縮ヲ要スルトキハ海軍艦政本部長ト請

員者トノ間ニ書面ヲ以テ取極メルニテ可ク其効ナ

キモノトス

第十條

本艦ノ製造完了

シタルトキハ請員者ハ其工事ニ

故障ナキヲ保證スル者ハ自己ノ費用及責任ヲ以テ左ノ規

定ニ依リ豫行試運轉ヲ施行シ監督者ノ承認ヲ受

クベシ

豫行試運轉ハ本艦ノ常備狀態ニ於テ約四海里ノ

標柱間ヲ全カヲ以テ六回順期三回航行シ其速力及

馬カヲ測定スルコト

本艦ノ實際ノ喫水製造方法書ニ記載シタル常備狀
態ノ計畫喫水ヲ超過シタルキハ其實際ノ喫水ニ
テ豫行詢運轉ヲ施行シ若シ實際ノ喫水計畫喫
水ニ至ラザルキハバウストシテ計畫喫水ニ至ラズ
之ヲ施行スルモノトス

第五條

請負者ニ於テ本契約ノ條項ヲ遵守セズ又ハ本艦
ノ製造ヲ完了スル能ハザルキハ海軍艦政本部長ハ請
負者ガ本工事ニ供セシカガ準備シ若シハ購入シタル材
料物品ヲ使用シ官ノ手ヲ以テ直接其工事ヲ施行シ
之ニ要スル費用ハ請負者ニ仕拂フヘキ金額ヨリ引去

ルヘシ若シ仕拂フキ金額ニテ不足ルキハ請負者
之ヲ辨償スルモノトス但シ官ニ於テ直接工事ヲ施行スル
場合ニハ請負者ノ工場、機械及職工ヲ使用スルコトアリ

第七條

請負者ニ於テ製造ヲ完了スルニ至ル製造方法

書ニ規定シタル寸度等ヲ遵守セス為メニ不当ノ重量ヲ増
加シ又ハ製造工事ノ不完全若クハ材料物品ノ不良ニ起因
シ豫行試運轉ニ故障ヲ生シ其他監督者ニ於テ本艦ヲ
通報艦タルノ役務ニ適セザルコト認定シタルキハ海軍艦
政本部長ハ本艦ヲ領收セズ本契約ヲ解除スルコトアリ

第十三條 本艦引渡後六ヶ月以内ニ船體、機関若クハ機装等ノ工事ニ不完全ノ箇所又ハ不良ノ材料物品アルヲ発見シ若クハ不完全ノ工事ヲ施シ又ハ不良ノ材料物品ヲ使用シタルニ基因シ其局部若クハ其局部以外ノ損傷ヲ生シタルトキハ請負者ハ官ノ指定シタル期限内ニ於テ自己ノ費用ヲ以テ完全ナルモノト引換ヘ又ハ損害ノ箇所ヲ改修スヘシ但シ官ノ都合依リ毎年工廠ニ於テ引換又ハ改修ノ工事ヲ施行スレトアルヘシ此場合ニ於テハ請負者ハ其費用ヲ辨償スルモノトス

第十四條 前條ノ引換又ハ改修工事ニ於テ請負者ノ工場ニ於テ施行スルコト能ハサルキハ請負者ハ官ノ承認ヲ受テ他ノ工場ノ工事ヲ委託スルコトヲ得

第十五條

請員者ハ官ヨリ逐次仕拂ヲ受ケタル金額ヲ
擔保スル為メ船體、機関及艀裝物又ハ材料物品ヲ官ノ
義認シタル保險會社ノ保險ニ付シ其保險證書ヲ海
軍艦政本部長ニ差出スルニ

請員者ハ又第十條ノ豫行訖運轉施行中海上其他各
種ノ危険ニ對シ前項ニ依リ本艦ヲ保險ニ付スルニ

第十六條

請員者ハ本艦ノ工事ヲ悉皆完成シ第十條ノ豫
行訖運轉ヲ故障ナク結了セシメ神戶港ニ於テ官ノ任
命シタル領收委員ニ本艦ヲ引渡スルニ

第十七條

前條ノ引渡期日ハ本契約締結ノ日ヨリ起算スルニ依リ

四ヶ月以内トス

第十八條 本艦製造請負代價ハ金九拾萬五千由ト定メ之
ヲ左ノ通り七回ニ分テ請負者ニ仕拂フモノトス但第十九條
依リ請負金額増減シタルトキハ第七回ノ仕掛金額ニ
於テ増減スルモノトス

第一回 本契約締結ノ年 金拾萬五千由

第二回 前百噸ノ鋼材及金屬ヲ船體ニ加工シ汽機汽
缸ニモ之ニ相当スル工事ヲ施行シタル年 金拾
萬五千由

第三回 肋材ノ全部ヲ組立テ外板ノ半ヲ取付ケ汽筒
ノ鑄造ヲ終リタル年 金拾萬五千由

第四回 防水區劃半數ノ防水試験ヲ終リ甲板ヲ半ハ

山本台名

張り付ケタルキ金指参考日

第五回 本艦ノ進水ヲ安全ニ終リタルキ金指参考日

第六回 豫行試運轉ヲ故障ナク終リタルキ金指参考日

参考日

第七回 第十六條ニ依リ本艦ノ引渡ヲ終リタルキ金指参考日

参考日

第十九條 本艦ノ引渡第十七條ノ期日ヲ經過シタルキ其

翌日より起算シ進延日數を日ニ付金百五拾圓其進延日數

六拾五日以上ニ及フトキハ六拾五日ヨリ老日ニ付金参考百圓

ノ請負者ヨリ官ニ納付スルニ但シ第九條及第十三條ニ

依リ延期ヲ許サレタル日數並ニ引渡ニ當日ハ本條ノ進

延日數ニ算入セズ

第三十條 前條ノ違反日數百以陸上日以上ニ及つりキハ陸軍

艦隊本部部長ハ本契約ヲ解除スルカ或ハ第十一條ニ依リ處

分スルコトアルヘシ若シ違反日數百以陸上日以上ニ及ビ

海軍艦隊本部部長本契約ヲ解除スルヘキハ其百以陸上日

目ヨリ陸上日ニ付金五百圓ヲ請負者ヨリ官ニ納付スヘシ

第三十一條 第三十條又ハ第三十條ニ依リ契約ヲ解除セラルル

トキハ請負者ハ本艦製造ニ對シ官ヨリ仕拂ヲ受ケタル

金額ヲ解約ノ日ヨリ参ケ月以内ニ官ニ納付スヘシ

第三十二條 引渡期日ハ天災其他避クヘカラスン事者即チ火

災洪水職工ノ同盟罷工其他監督者ニ於テ避クヘカラスン

海軍省印

事業者認定ニシテ事項ヲ生シムル違正ハ之ニ對シ相當
の延期ヲ許スルハ多ク前記事項外ニ其因ニ複請員
者ニ在ケル材料物品ノ供給違正其他請員者ノ工場及機械
ノ毀損等ニ對シテハ監督者ニ於テ避クヘカラス事業者ト認
ムルモノハ外延期ヲ許サレルモノトス但シ延期ヲ要スル事
實ヲ生シタリキハ請員者ヨリ書面ヲ以テ海軍卿或本
部長ノ承認ヲ受クヘシ

第三三條 請員者ハ本艦製造ノ爲メニ準備シ又ハ購入シタ
ル材料物品ハ請員者ニ於テ有ラズ他ノ諸材料ト區分
保管スルニ其方法ハ監督者ノ承認ヲ受クルモノトス
前項ノ材料物品ハ請員者ニ於テ契約履行ノ擔保ニ
供スヘシ

第十四條 請負代價ハ第十八條ニ依リ仕拂請求書ヲ
提出シタル日より拾五日以内ニ海軍省經理局ニ於テ請
負者ニ拂度入セシムル但シ第二面以後ノ仕拂請求書ハ
工事監督者ノ證明書ヲ添付スルニ

第十五條 前各條ニ明記セザル事項ハ明治三十三年海軍
省告示第九号ノ工事請負規則ニ從フモノトス

右契約ノ證トシテ本書並ニ通リ作り雙方署名捺印シ各
自其巻通リ保存ス

明治三十八年 四月 廿九日 契約締結

明治三十八年四月二十九日

海軍艦政研究所長 齋藤 寅

神戸市東川崎町三丁目

株式会社川崎造船所

社長 松方 幸次郎

(山口印行)

海

軍

1341

艦政本部長



第三部長

第四部長

第一部長

第二部長

會計部長



副官



参事官

三十年七月六日起案

七廿

大臣

次官



軍務局長



局員



經理局長



主任局員

主任局員



明治三十年二月六日 人事局長

訓令

臨時軍事費増進補正費の取組製造

官房機密第八三三號

第号通毅艦製造方神戸川崎造船所
請員ハセ海軍艦政本部長ヲ手別件ニ通リ
契約セシムル為左ノ通リ相心得兵器則是及
備品ノ備付方取計ニ
明治八年七月十三日

海軍大臣
長 鏡 守 府 員 長 友

一、契約第二條依リ兵器則是及備品ノ備付方ハ
本艦領收ノ後兵海軍工廠ニ於テ施行シ本艦
別度前ニ備付シ要見之ハ同工廠ニ於テ請員
者ニ交付ス之右ノ費豫算金參第百
四十一号ニ於テ配付ス

二、契約第十六條ニ定ムル領收委員其府に
於て任命シ神戸港、所志、本郷ヲ領收シ
其津港、田所セシムルコト

官房第三三三三號

目川崎志
不所
於
集
志
中
通
部

仰
裁
案
鼎

大臣

次官

副官
村松

日十月三月廿五日起案

法裁
三廿九

經理局長



主任局員



軍務局長



局員



艦政本部長



會計課長



第二部長



第三部長



第四部長



部員



軍令部長



次長



第一班



第三班



3-27

三七

1346

禮送、英主十日十六日及、房身四〇七。テ
 用、決裁、基、重、細、混、燒、装、置、ノ、設、付
 致、慶、ノ、就、テ、別、紙、勢、約、事、ノ、案、ノ、通、ル、事
 加、勢、約、締、結、致、シ、可、然、裁、仰、ヨ、裁、候

明治十年三月廿六日

備考

本件、要之費用、本館製造費、豫
 内、テ、支、弁、ノ、見、込

追加契約書(三葉)

海軍砲政本部長ト神戸市株式會社川崎造船所社長松方幸次郎トの間締結シタル明治二十八年五月一日附通部砲裝志契約書、左ノ通り追加スルコトヲ茲ニ契約ス

第二十六條 重油混燒裝置設備方、別紙圖面ニ依リ、通リ改良工ノ事

第二十七條 此追加ニ依リ増加シタル工ノ事ニ關シテ、其ノ材料ヲ信給セサルヲトス

第二十八條 此追加ニ依リ、承契約書第十七條ノ記載ニシテ、列添期日ヲ明治二十年

平月三十一日トス

第二十九條は依り増加し工事請負

金額金貳萬圓ト本契約書第十

一條、第七回拂上同時に仕拂、モノ

トス

右追加、双方同意し証トシテは契約書の

二通、作り双方署名捺印し各自其の通

ヲ保有ス

明治四十年三月二十日

神戸市株式會社川崎造船所

社長 松方幸次郎

海軍建設部長 片岡七郎

目録

○ 重油焚火の詳細

○ オイルランプ・ボレンゴ

○ オイルヒーター

○ オイルヒーター

○ オイルヒーター

○ エイヤバウセル

○ ストレーパー

○ 重油諸言中表

○ 重油の陣

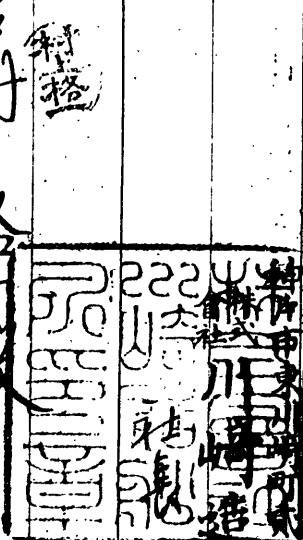
の巻

渡進水... 報略符ゾウセン

長八五六 (重役室) 一三六二 (船庫)
一五一 (庶務室) 一六七七 (倉庫)
六三三 (造船課室) 一六七七 (倉庫)
二四 (方工)

第二八一號 明治四十年十一月九日

海軍省副官村上格一殿



船所 松方幸次郎

右取十五台附... 日渡進水... 電報ヲ以テ上申

職員 田中 菊々

軍務局



株式會社川崎造船所用箋

軍務局

奉命
 浸透水七八割迄
 限手大尾丸報告
 昭和五年
 十月廿一日
 川崎造船所
 長松方孝治
 小村
 松村

軍



奉命

1353

70

紙

達

送

報

信

局	着	局	第	第	發	名氏所居人信受
取扱者	信受 午後	信受 午後	第三	第一	報	信受 人 居 所 氏 名
三	五	五	三	一	報	信受 人 居 所 氏 名

ヨド
ヨ
ミ
ミ
ダ
ゴ
ス
イ
ホ
シ
ブ

送
午
後
四
時
中

本
城
様
為
大
付
吉
田
方
特
上

指
定

事
記

土
主

意注	名氏所居人信受
他人 の 電 報 ノ 配 達 ヲ 受 ケ タ ル 者 ハ 此 由 ヲ 符 號 シ テ 直 ニ 此 ノ 配 達 シ タ ル 電 信 局 所 へ 返 戻 ス ベ シ 取 本 人 へ 直 送 シ 又 ハ 手 渡 シ ス ベ カ ラ ズ	信受 人 居 所 氏 名

1354



供
馬
具

送

軍
務
局

紙

主
政
部

了
了

名氏所居人信受

第 一 部 長	第 二 部 長	第 三 部 長	第 四 部 長	第 五 部 長	第 六 部 長	第 七 部 長	第 八 部 長	第 九 部 長	第 十 部 長
分	分	分	分	分	分	分	分	分	分

Handwritten notes and stamps in the top right section, including a circular stamp and a rectangular stamp with the character '急' (Urgent).

Main body of handwritten text, including the characters '軍艦' (Battleship) and '四時' (Four o'clock), along with various stamps and signatures.

定指

事記

名氏所居人信受

Bottom right section containing handwritten notes, stamps, and a circular stamp with the number '40'.

1356

昭和十三年四月...

補正費、造紙費、金壹万八千圓ヲ同途トシ施行ス

明治四十一年五月五日

大臣

陸軍省大臣 長友

備考

軍破産、債権者、依、引、取、扱、ス

付、陸軍省大臣 長友、陸軍省大臣 長友、陸軍省大臣 長友

水雷 砲熧

艦政本部長



第三部長



部員

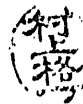
第一部長



會計課長



副官



參事官

甲午年九月廿九日起案

大臣 藍

次官

軍務局長



司員



經理局長



主任



明治三十二年五月五日訓令案

海軍大臣

官房第一九〇〇號

製圖室

繪圖



1359

号録司令長友記

軍艦定水雷頭部庫及小銃彈藥

庫改造仕

軍艦定水雷頭部庫及小銃彈藥庫別

紙面通り改造仕

九

木

1361

1360

号録司令長友記

軍艦定水雷頭部庫及小銃貯庫

庫改造位

軍艦定水雷頭部庫及小銃貯庫並別

別庫置別島國面一角より改造せしむ

但小銃貯庫製造者記有簿書内を査す

右訓令

(別島國面第一三三三号を参照)

理由

水雷頭部格納方變更を要するに依り

1361

1360

送

起案紙第一號

明治三十四年八月十日起案

起案者
徐印

印

八月九日發

發付後起
案者徐印

提案 總務部長

印

大臣

次官

參事官

副官

印

總務局長

印

局員

印

印

海陸軍部

印

印

會計

印

印

印

第二福

印

第四福

印

印

印

印

印

1362

明治三十四年八月十日
海軍大臣
提督
第一四號
海軍大臣
提督
第一四號

發送
掛號

官房第三三三號

海軍

カ
海軍
73/1
8-11

軍艦其他諸公試入費金五千五百圓
類之認許ス

理由

軍艦没百裏官房方一八九九号ヲ以テ金
一八千四百圓トシテ試運轉其他完成ニ至
ルニ工事ツラシキ旨訓令相成候處準
海運轉地ノ結果煙突管防熱装置
新設雖煙路改造及自由焚地装
置以良業豫定ノ工事以外ニ是亦
共海運轉ノ要ニ可キ工事ナリ起リモ為
充テ即約ト加ハ右ニ事施リ上ニ試
運轉ノ結了セルモ早ニ試運轉其他

兵装ニ付テ船部ニ事費トシテ配付セラレ
 タル所記金額ニ到底支辨ニ得ラセ
 リタルモノニシテ上申文ニ其意ヲ尽サザル
 付事部ニ於テ訓令予算不足トナレ
 得止事實ニ因ルモノナリトシテ
 此後日ス

本文費用ハ本艦製造費残額中艦艇補足費
 六千五百圓用ノ内ヲ支弁スル也

毎
 頁

艦政本部

會計課

第四部

第三部

任屬

經理局

濟

經理局長

副官

經理 日班 領受

經理 日班 領受

經理 日班 領受

經理 日班 領受

副官

副官

副官

吳第一

經理部

一

二

三

四

七月二十七日

明治三十一年七月十四日

吳海軍工廠長伊地知季珍

海軍工廠

海軍大臣野將齋藤實致

軍艦旋公試運轉其他諸公試入費ノ件

右件ニ関シ曩ニ官房第壹八九九號ヲ以テ金壹萬八千圓ハ既ニ訓令

濟ニ候處今般公試運轉其他諸公試結了精算ノ結果金額貳萬參

千五百圓ヲ要シタル為ノ其差額五千五百圓ノ不足ヲ生シ候条不足増額

相成度

右上申ス

終

官房第三三〇一號

海軍

1369

濟

1367

1366



肥前守

肥前守 田原 重成

圓八既訓令
金額貳萬參
俵奈不足増額

(終)

軍

1366

1367

1368

吳工廠 待申
高本 吳工機 待申 第一号 第二号 第三号 第四号 第五号 第六号 第七号 第八号 第九号 第十号
金出 申付 不足 理由 不明 候付
相成 候申 右ノニテハ
關ノ 俵 送付 ヲ 得度

軍 (終)

金願貳萬參
候奈不足増額

領少
經吳
日計册

1369



本件... 協議
... 書表
... 度
... 目
... 附

1368

1367

1366



船名四第... 五・五

明治四十一年七月十日

海軍省原海軍艦政本部第四部長

水谷吳海軍工廠造船部長殿

軍艦渡公試運転其他人質ノ件

吳工廠渡第二号ニ五属ニテ以テ軍艦渡公試運転其他人
 質概算ノ内レ御通報ノ趣ヲ承知申上ル趣、金額萬
 千五百圓ノ内、元方八千圓ハ官房第一八九号ヲ以テ割
 濟ニ委ハル差引五千五百圓不足ヲ生シタルト存案
 右金額増額方御上申相成度
 右照会ス

A large rectangular frame with vertical lines, possibly representing a page from a ledger or a book. The frame is mostly empty, with a large, dark, irregular stain in the top-left corner. On the right side of the frame, there is a handwritten number '3' enclosed in a circle. The frame is surrounded by a thick black border.

3

1371